求人情報の検索履歴に基づく大学生の就職活動の可視化

Visualization on the Job Hunting of a University Student from Search Logs of Help Wanted Information

石川 貴彦
Takahiko ISHIKAWA
名寄市立大学保健福祉学部
Faculty of Health and Welfare Science, Nayoro City University
Email: ishikawata@nayoro.ac.jp

あらまし：大学生の適切な就職支援の方法を検討するための資料を得るため、本研究では、求人検索システムに蓄積された履歴と、対象とした就活生からの聞き取り調査との照合によって時系列プロットを作成し、就活生の動きや就活中に起きた困難さを読み取ることを試みた。
キーワード：キャリア教育，就職活動，検索履歴，求人検索システム、時系列プロット

1. はじめに

中教審が 2011 年に「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」(1)を示して以来、キャリア教育の更なる充実が求められた。各大学は、アクティブラーニングに代表される新たな学習方法の試みや就職支援組織の整備を進め、現在では、どの大学でもキャリア教育は一般的な取組になった。しかしながら、キャリア教育がどんなに充実しても、最終的には学生自身が納得できる就職先や進路をみつけることが第一である。教育の工夫によって専門的な知識・技能や問題解決力を育成したところで、学生本人が望む仕事内容や勤務希望地、待遇などといったあらゆる条件のクリアと、さらに求人先の募集のタイミングの一致という両方を満たさなければ、キャリア教育で育成した能力は十分に発揮されないだろうと筆者は考える。

大学におけるキャリア教育や就職支援の工夫を述べた、教育者側の研究や事例が様々紹介されているのに対し、就活中の行動等を明らかにしたような就活生側の研究は多くない。そのなかでも吉田ら(2)は、進路志望の変化や決定時期等について、大学３年生対象のアンケートから調査し、また、高橋・松井(3)は就活に対する不安や大学が提供したキャリア教育の有益性、就職先への価値基準等について、卒業生対象に調査を行った。このような就活前や就活後の実態調査が手段の１つとなっているが、さらに新たな手段で就活の状況を捉えることが可能ならば、就活生側の研究のバラエティが増し、それは適切なキャリア教育や就職支援の方法を検討するための判断材料が増加していくと予想する。

そこで本研究では、新たな調査手段として Web 上の求人検索システムに蓄積された閲覧履歴に注目した。履歴からアクセスログやクリックして閲覧した職種等を取得し、さらに就活生からの聞き取り調査を組み合わせて、時系列プロットを作成した。このプロットを用いて就活生の行動を時系列で表し、就活開始から決定までの動きや、そこで生じる就活の困難さを読み取ることを目的とした。

2. 検索履歴の取得と可視化

2.1 求人検索システムでの履歴の記録

筆者が独自に開発したシステムを用い、本学就職支援室の職員が大学に届いた求人票を随時入力し学生に公開する（**図１**）。学生は、ログイン後に所属学科、勤務地（北海道内・道外・すべて）、職種を検索条件として与え、条件に一致した求人先が一覧表示される。この一覧にそれぞれ付帯する詳細表示をクリックすることで、職務内容や雇用形態、試験情報等を閲覧できる。履歴の取得ポイントは、ログインと詳細表示のボタンの２箇所に設け、就活生がボタンをクリックする毎にユーザ ID や時間、職種をデータベースに記録する。なお、求人検索システムは自身が所有するスマホからアクセスできる。

2.2 対象となる就活生

管理栄養士かつ札幌近郊での就職を希望する大学４年生１名を対象とした。本人はハローワークや民間の就職サイトにも登録したが、検索は求人検索システムのみと述べた。また、履歴を取得していたことは就活中に本人には知らせず、就職決定後に筆者から告知し、履歴使用と聞き取り調査の承諾を得た。

調査では各検索履歴について、受験を考えている求人先（A）、職種が該当し取りあえず見た求人先（B）、

図１ 求人検索システムの一覧表示画面

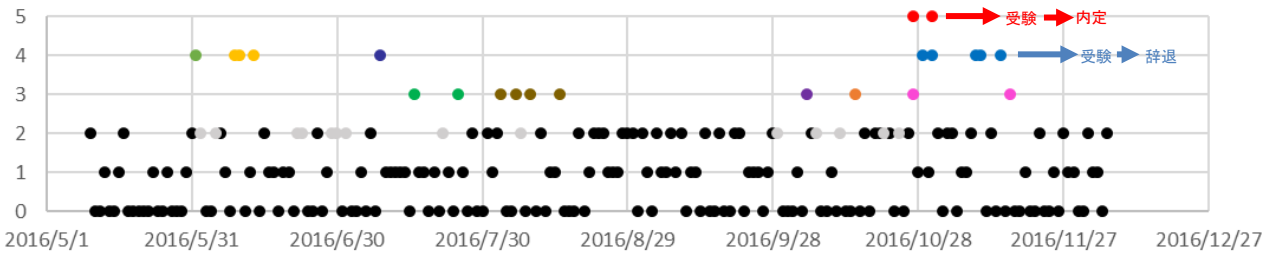

図２　閲覧履歴と聞き取り調査から作成した時系列プロット
（※　同色は同一の求人先、②の黒は B、灰色は C の分類を表す）

所在地や知人の就職先など就活以外の興味で見た求人先（C）、クリックミス等の誤操作で開いた求人先（D）の４つを定め、本人に分類させた。さらに、A のうち実際に受験した求人先および結果を聞いた。

2.3 時系列プロットの作成

初回ログインの５月から就職決定の 12 月までの期間において、1 日毎にどの段階かをプロットして、就活生の行動を時系列で表した。そして、就活を以下の段階に分け、プロットの位置を定義した。

第５段階（⑤）：就職決定の段階
第４段階（④）：受験の段階（説明会参加も含む）
第３段階（③）：求人先候補の選定の段階
第２段階（②）：求人検索の段階
第１段階（①）：ログインの段階
第０段階（⓪）：ログインせず

⓪→①はログイン履歴から判定し、①→②は詳細表示の閲覧履歴と分類 B、C の該当で判定した。そして、②→③は分類 A に該当するかどうか、③→④、④→⑤は聞き取り調査によって分別した。なお、１日に複数回ログインし、履歴に A と B が混在した場合は、A の該当を優先し③にプロットした。

3.　時系列プロットからの分析

図２より、ログイン開始の５月は、⓪にプロットが連続しており、積極的に検索していない様子を表している。6 月は①②が増えたが候補が少ないため、②でも C が多かった。そして初めて④に達し、**表１**の網掛けで示した委託会社と病院の説明会に参加した。７月では⓪①に連続箇所があり、求人なしを見込んでログインしなかったか、ログインしても候補がなかったことを表している。8 月は⓪と②が多く、夏休み中は行動をあまり起こさず、徐々に増え始めた B から候補を見定めていた時期であった。９月と 10 月は臨地実習や卒論のため⓪が連続したが、②③は一定に分布している。11 月前半は②以上に達した日が増え、候補を掛け持ちで受験し、後半は掛け持ちのどちらかに決定することを見込んで⓪が増えた。結果として、候補の１つである病院が 11 月末に内定し、もう１つの候補であった保育園は 12 月に途中辞退したことで就活が終了した。

表１　A・B に該当した月毎の求人数と受験状況

	福祉	委託	病院	保育園	計
５月	3	2	0	0	5
６月	1	3	2	0	6
７月	1	1	1	1	4
８月	7	0	1	1	9
９月	1	2	1	1	5
10 月	3	0	3	4	10
11 月	1	1	2	0	4
12 月	0	0	1	0	1

※　該当月に１つでも④に達した場合に網掛けした

このように、時系列プロットで活動を表し、さらにプロットを示し再度本人から詳細を確認したことで、就活開始が決して遅かった訳ではないことや、求人種や数が、募集時期に依存することも明らかにできた。今後の就職支援では、個別面談に加えプロットを活用できれば、就活生の希望と、動き・募集時期等を双方考慮した指導が期待される。

4.　まとめ

本研究では、閲覧履歴を活用して就活生の行動を可視化し、さらに詳細を聞き取ることで、開始から決定までの動きや、栄養士職特有の就活の困難さを読み取ることができた。就活前半は、４年生なので就活しなければという自覚を持って検索したが、候補はあまりないという現実だった。しかし、後半の秋頃には希望の求人が来て受験し、就職が決定した得た結果となり、時系列プロットは約７か月間の動きを直に表現した手段になったと結論づける。

今後の課題としては、様々な就活生の事例の分析からプロットをパターン化し、就活のモデルを確立するとともに、実際の就職支援の場面で利用できるような体制を整えていきたいと考える。

参考文献

(1) 中央教育審議会: “今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）”, http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1301877.htm, 参照日 2017.1.13,（2011）
(2) 吉田文, 牧野智和, 河野志穂, 内野恵子, 前田崇, 堀谷有史, 御手洗明佳:”「就活」に翻弄される大学生―進路意識の形成過程に着目して”, 日本教育社会学会大会発表要旨集録, Vol.62, 282-287（2010）
(3) 高橋桂子, 松井賢二:”大学における就職支援の在り方に関する考察―大学の就職支援に対する学生の評価”, キャリア教育研究, Vol.24, No.2, 21-27（2006）